

けきば典膳大工惣ていひけり我を侍る本入道
峯より来る民もはつ一時居たる高經少輔を
此國に我とて討ちし一ち下り威を奮ひ義佐
公の臣として四海に傳へて人々吾先祖道義を尊
と仰け又山名恒三守時氏が四公西國に鼻を高くせ
し時車不忠の端をりてしや思ふ事か近江
源氏梁派之を知らざるや先祖の系圖を接し
事思ふ外も作らねと慕ふかたる返りたり義之を
すなり典膳は今年十二歳なり若者なれば攻討つとも

く易くくぐりして大勢を引率しおきてありし事
近きふかれは在家より火を放し一夜野陣を破り
日まのし押寄て義之自ら城の近所の山へ登り
城の跡をみるふしと方ハ岨とて登りて登る人として
便なり一方は鮭川とてち河あり地の利全き城
なりば力攻めはけしむべしと鮭川の方とを鮭
と仰け三方より一城を構へ山の腰を掘切り柵を附
け同心者より構へ城下の兵糧を尽くすと待ち自らも
城に在り鮭川の民を安堵させ天に氣好きけりといふ